学習支援サービス

ラインズ eライブラリ® アドバンス

講習会テキスト

お問い合わせはラインズヘルプデスクまで

先生用フリーコール　**0120-49-7130**
（平日 9:00-17:00 携帯電話可）

先生用ＦＡＸ　**03-6861-6006**

先生・保護者用メール　**el-help@education.jp**

先生サポートサイト
https://support.education.ne.jp/ela/ela2020.html

※保護者様からのお電話での問い合わせは受付しておりません。

※先生サポートサイトはパソコン用サイトです。

LINES
学ぶチカラを、未来のチカラに

講習会テキスト 目次

Chapter. 1 ラインズｅライブラリアドバンスとは

1.1 ラインズｅライブラリアドバンスでできること 1
1.2 利用場面 1

Chapter. 2 操作メニューとログイン

2.1 学校で学習する 2
2.2 家庭で学習する 3

Chapter. 3 児童生徒が学習する

3.1 ドリルで学習する 4 ドリル
3.2 自分で教材を選んで学習する 6 自由学習
3.3 ライブラリのコンテンツ一覧 8 ライブラリ
3.4 学習したことをふりかえる 10 ふりかえり

Chapter. 4 学習指示ー授業支援へー

4.1 授業支援機能 11 授業支援

Chapter. 5 学習指示ー学習指示へー

5.1 「確認テスト」で理解度を確かめる 12 学習指示
5.2 確認テストから理解状況を確かめる 13 テスト結果詳細
5.3 児童生徒の理解度に沿った課題を出題する 14 自動個別課題
5.4 教材を指定して課題を出題する 15 教材指定学習
5.5 出題した課題の取り組み状況を確かめる 16 学習指示一覧
5.6 特定の児童生徒に課題を出題する 17 グループ管理

Chapter. 6 児童生徒の成績を確認する

6.1 クラス・教科ごとに成績を確かめる 18 クラス/教科ビュー
6.2 個人ごとに成績を確かめる 19 個人ビュー

Chapter. 7 児童生徒のメッセージを送受信する

7.1 今日のふりかえりの返信をする 20 コミュニケーションへ
7.2 クラス・全児童生徒へメッセージを送信する 21 コミュニケーションへ

Chapter. 8 収録教材を活用する

8.1 収録教材を検索して確かめる 22 教材検索

操作動画のご案内

本紙に掲載している操作方法の動画を
右記のQRコードからご覧いただけます。

児童生徒メニュー　先生メニュー　設定

講習会テキストをご覧になる前にお読みください。

- 本文中の マークは、利用する上でのポイントや便利な利用方法を紹介しています。
- 本文中の マークは、利用する上での注意点を説明しています。
- プリント教材などのオプションコンテンツは、別途ご契約が必要です。
- ｅライブラリの設定や児童生徒・先生アカウントに関する操作方法は、「かんたん運用ガイド」をご覧ください。
- 最新の推奨環境は、ｅライブラリのトップメニュー下段の【推奨環境】をご覧ください。
- 本冊子に掲載された画像・内容等は開発中のものです。予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

Chapter. 1

ラインズｅライブラリアドバンスとは

「ラインズｅライブラリアドバンス」は、小学校１年生から中学校３年生までの５教科＋中学校実技教科の教材と、読解スキルドリルなどを収録したオンラインの学習支援サービスです。教材は毎年更新され、最新の状態でご利用いただけます。

１.１　ラインズｅライブラリアドバンスでできること

すべての児童生徒に、最適で多様な学びを

ＡＩ型ドリルを中心に、あらゆる学年・教科の教材を配信し、弱点の克服や自主的・主体的な学びの促進など、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた学習を実現します。

先生による学習支援とよりよい授業づくりのツール

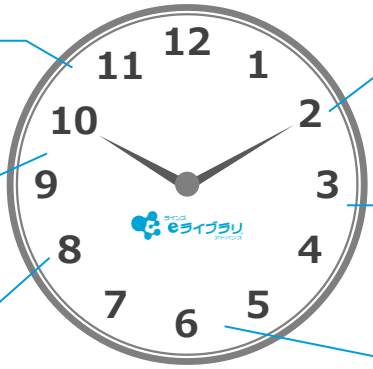
児童生徒一人ひとりの学習傾向や取り組み状況、気持ちなどをより的確に把握することができます。それらの学習データを効果的に生かすことのできる機能や教材によって、支援の必要な児童生徒への適切な指導やよりよい授業づくりを実現します。

１.２　利用場面

単元・学期のまとめ
学習内容の復習やまとめにドリルで学習

隙間時間
課題が先に終わった児童生徒の学習

朝学習
朝学習の１５分間をドリルで学習



自習課題
先生の出張中の自習課題

放課後学習
補充学習や学習教室でドリルで学習

家庭学習
授業の復習や次の授業の予習

Chapter. 2

操作メニューとログイン

ラインズｅライブラリアドバンスは、学校で利用する「学校版」と家庭で利用する「家庭版」があります。また、児童生徒が学習で利用する「児童生徒メニュー」「ダウンロード学習」と先生が児童生徒の学習状況を確認する「先生メニュー」に分かれています。

2.1　学校で学習する

学校版 児童生徒メニューを開く

児童生徒メニューでできること

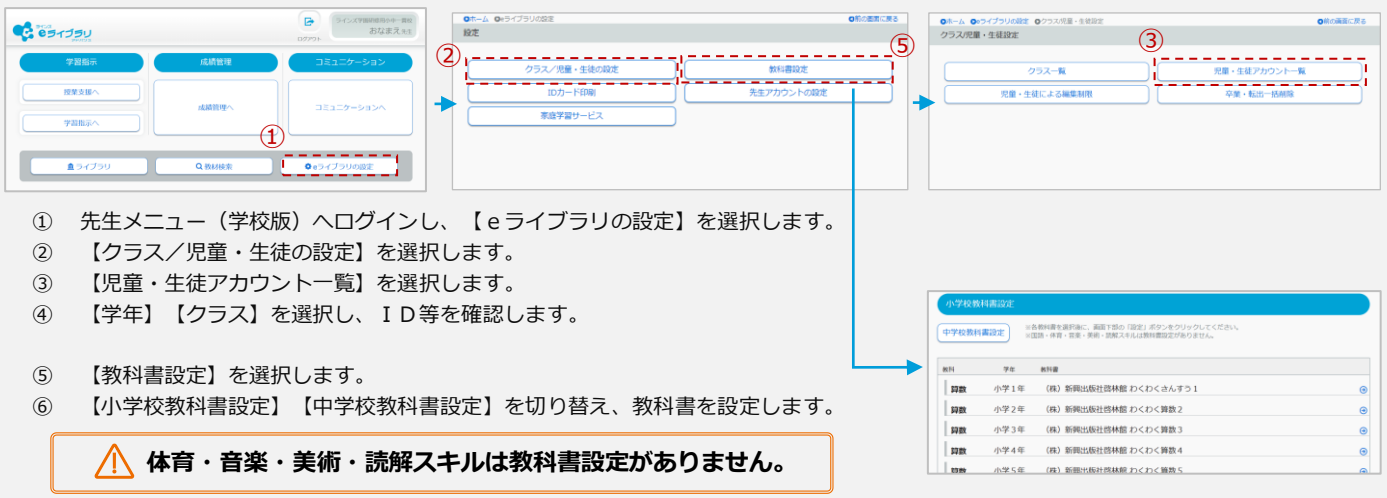
- 先生からの指示（課題）
- 自由学習
  - ・おさらい
  - ・単元学習
  - ・タイルマップ学習
  - ・テスト対策
- ふりかえり
  - ・成績の確認
  - ・今月のふりかえり
  - ・今日のふりかえり（先生との連絡）
- ライブラリ

学校版 先生メニューを開く

先生メニューでできること

- 児童生徒への学習指示
- 児童生徒の学習履歴確認
- 児童生徒とのコミュニケーション
- 教材検索
- ライブラリ
- 児童生徒のID管理、教科書設定など各種設定

児童生徒のＩＤ管理、教科書設定など各種設定ができる



① 先生メニュー（学校版）へログインし、【ｅライブラリの設定】を選択します。
② 【クラス／児童・生徒の設定】を選択します。
③ 【児童・生徒アカウント一覧】を選択します。
④ 【学年】【クラス】を選択し、ＩＤ等を確認します。

⑤ 【教科書設定】を選択します。
⑥ 【小学校教科書設定】【中学校教科書設定】を切り替え、教科書を設定します。

⚠ **体育・音楽・美術・読解スキルは教科書設定がありません。**

2.2　家庭で学習する

家庭で学習する操作方法を紹介します。学校外のパソコンやタブレットからインターネットを通じて自由に学習する方法、あらかじめダウンロードしたドリルと解説教材をオフラインで学習する方法があります。

家庭版 児童生徒・先生メニューを開く

学校版と家庭版では、利用できるライブラリの数が異なります

家庭版では、名簿登録やＩＤカード印刷など、ｅライブラリの設定がご利用になれません

家庭版 児童生徒 接続先ＵＲＬ

https://ela.kodomo.ne.jp/students

家庭版 先生 接続先ＵＲＬ

https://ela.kodomo.ne.jp/teachers

①　推奨ブラウザで上記URLへ接続すると、家庭版ログイン画面が開きます。
②　家庭版 学校コードと児童生徒・先生に発行されているログインID、パスワードを入力し、ログインします。

家庭で家庭学習ログイン画面を、すばやく開く方法

- ログイン画面の【ショートカットを作成】、または【お気に入り登録】をすることで、次回の起動が簡単になります。
- ログイン画面の【学校コード、ログインIDを保存する】にチェックをつけると、次回から入力の必要が無くなります。

推奨ブラウザ
（最新バージョン）

Microsoft Edge　Google Chrome　Safari

ダウンロード学習アプリを開く

①　ダウンロード学習アプリを起動します。
②　児童生徒ＩＤとパスワードを入力し、ログインします。

利用手順

①　教材をダウンロードする（オンライン）
↓
②　学習する（オフライン）
↓
③　成績を提出する（オンライン）

・児童生徒が学習する機能のみで、先生機能はありません。
・先生からの課題をダウンロードできるのは、一回です。

ｅライブラリの学校コードは二種類・・・【学校版】と【家庭版】

- 家庭版ＵＲＬで児童生徒・先生メニューを利用するには、【家庭版】学校コードを利用します。【家庭版】学校コードは、先生メニュー（学校版）の【ｅライブラリの設定】で見られます。
- ダウンロード学習アプリを初めて利用する際に、端末初期設定として【学校版】学校コードを利用します。
- 【学校版】学校コードは、「ｅライブラリアドバンス」アカウント一覧表に記載されています。

先生メニュー（学校版）

Chapter. 3

児童生徒が学習する

児童生徒一人ひとりの理解度に応じて、おすすめの教材を自動構成して出題するＡＩ型ドリルです。弱点の復習はもちろん、得意を伸ばすための教材も出題されるため、児童生徒の自主的・主体的な学びを支援します。

3.1　ドリルで学習する

先生から出題された課題に取り組むとき、児童生徒が学習したい教材を自分で選んで取り組むときの操作手順を紹介します。

収録場所

【児童生徒メニュー】

① 学習履歴に応じ表示が変わり、児童生徒が任意で選べます。
おさらい、中断、得意をのばす、などがあります。

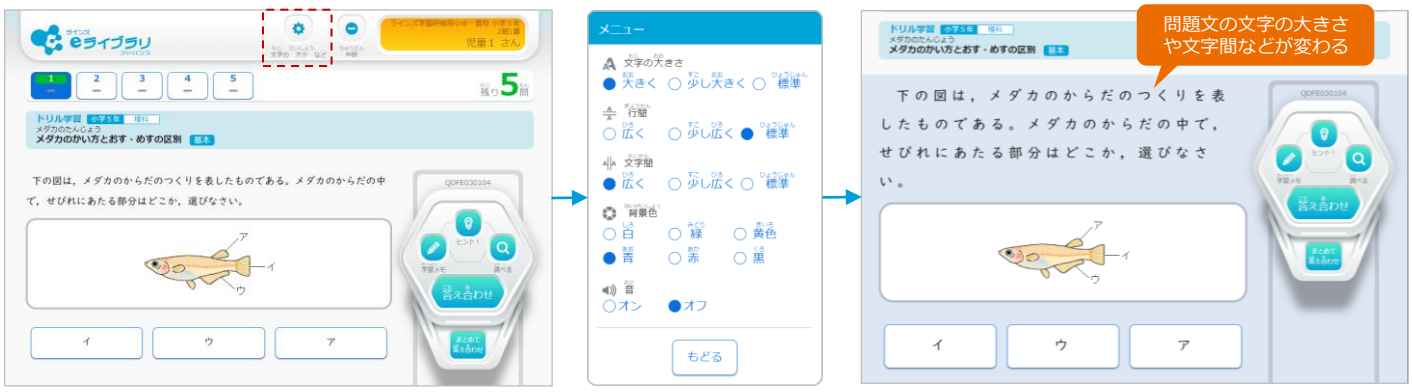
② 【先生からの指示】に表示される【課題あり】を選択します。
③ 出題された課題一覧から、取り組む課題を選択します。

学習する教材を開く

これより下は、「ここからはじめよう!!」に進んだ場合の手順（6ページの「単元学習」と同じ）です。

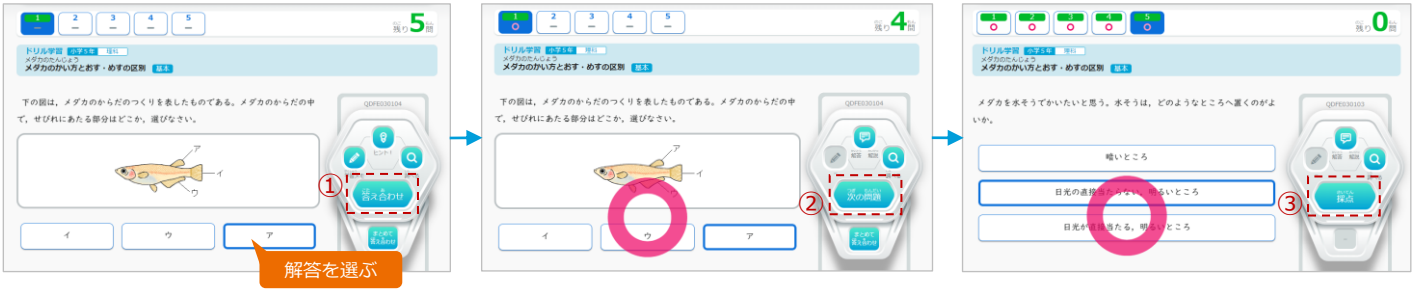
① 【ここからはじめよう!!】を選択し、学習する【学年】【教科】を選びます。学習する単元の【自分で選ぶ】を選びます。
② ドリル一覧の【教材名】【難易度】を選ぶと、ドリルが開きます。

ドリルの画面の見え方を変える



【文字の大小など】を選択すると、問題文の大きさや文字間隔、背景色などを変更できます。
※ 正誤判定の音声は、【音】を【オン】にすることで聴こえるようになります。

ドリルの問題を解く



① 選択肢から解答を選び、【答え合わせ】を選択すると、正誤判定されます。

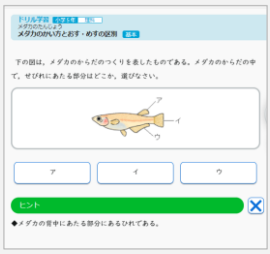
② 【次の問題】を選択すると、次の問題が表示されます。
※取り組むたびに問題はランダムに出題され、選択肢は配置が変わります。

③ 全問解き終えたら、【採点】を選択します。
※【採点】を選択しないと学習結果が残りませんので、ご注意ください。

間違えた問題は【リトライ】で学び直し

間違えた問題がある場合は、採点の前に【リトライ】が表示され、選択すると間違えた問題のみもう一度取り組めます。

考えを助ける【ヒント！】

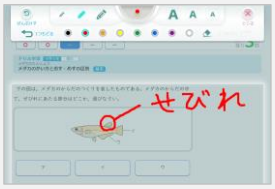


問題を解くためのヒントが表示されます。解答を選ぶときは【×】を選択し、ヒント表示を閉じてください。

解説教材が収録されている【調べる】

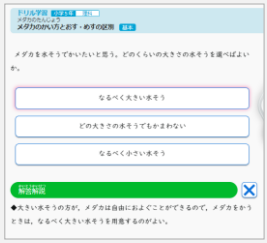
該当単元で学習したことの要点がまとまった解説教材などを開くことができます。問題画面にもどるときは、【×】を選択し閉じてください。

画面に書き込める【学習メモ】



表示される白い枠の中に書き込むことができます。書き込んだ内容は学習履歴として保存されます。解答を選ぶときは【×】を選択し、表示を閉じてください。

間違いを確かめる【解答解説】



問題を解いた後に、【ヒント！】が解答解説に変わります。次の問題に進むときは【×】を選択し、解答解説の表示を閉じてください。

次の教材に取り組む

①【採点】を選択すると学習結果が表示されます。
②【もどる】を選択すると 、違う難易度の問題を選ぶことができます。違う教材に取り組むときは【ホーム】を選択して教材を選び直します。
③【この結果をタイルマップで確認する】を選択し、タイルマップ学習を選択することもできます。

3.2　自分で教材を選んで学習する

【自由学習】の６つの利用シーンを紹介します。
児童生徒が自主学習をするとき、自分で入り口を選べます。

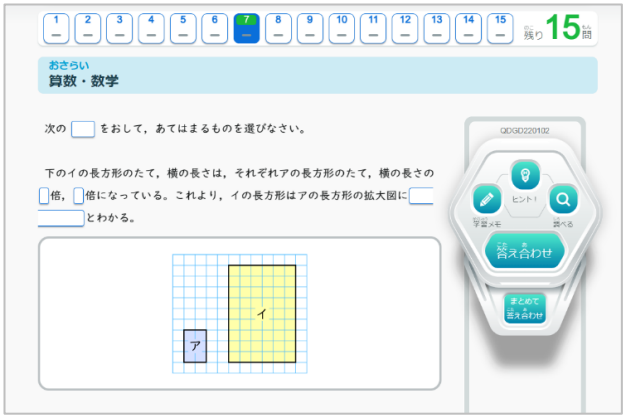
収録場所

【児童生徒メニュー】▶【自由学習】

【自由学習】を開く

①　【自分で選ぶ】を選択し、【自由学習】を開きます。

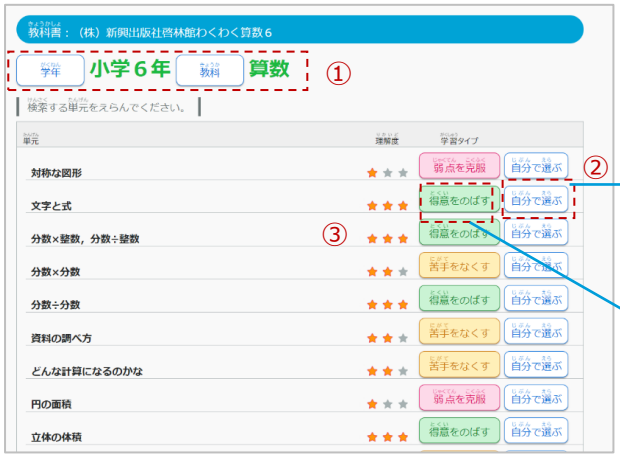
Scene 1 【おさらい】で間違いを確かめる



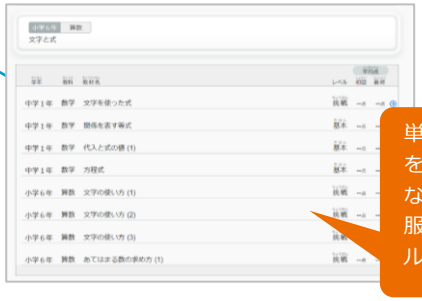
①　【教科変更】【期間変更】を選択し、【おさらい教材を表示】します。
②　取り組みたい教科を選び、【おさらい開始】を選択します。
③　①で選択した範囲の、リトライができます。

⚠ **「おさらい」で学習した結果は、学習履歴に反映されません。**

Scene 2 【単元学習】で授業に沿って選ぶ



教科書の単元に合わせ、教材一覧が表示されます。



単元に沿って【得意をのばす】【苦手をなくす】【弱点を克服】から選び、ドリルに進めます。

①　【学年】【教科】を選択します。
②　学習したい単元の【自分で選ぶ】を選択します。
③　学習履歴に応じ「学習タイプ」から選択することもできます。

Scene 3 【タイルマップ学習】で自分の学習位置を把握する

① 取り組みたい【教科】を選びます。
② 領域・分野を選びます。
③ 学習単元名の頭文字を表示したタイルを選びかえるごとに、画面右が切り替わります。

④ ドリル問題のサムネイルを見られます。
⑤ 難易度を選ぶと問題が開きます。

ためしてみよう！で興味関心を拡げる教材選び

【ためしてみよう！】では、ここに表示されている教材の関連教材が出題されます。取り組んだ問題から、それに繋がる新しい学びのきっかけを見つけます。
※表示がない教材もあります。

Scene 4 【テスト対策】で範囲を絞って取り組む

① 【学年】【教科】を選びます。
② テスト対策を行う教科書範囲のページを入力し、【探す】を選択します。

③ 【教材】を選択すると、おすすめのドリル問題が始まります。

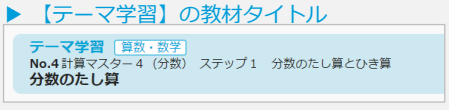
Scene 5 【テーマ学習】

① 【教科】【コース】【ステップ】を選択します。

② 【教材】を選択すると、ドリルが開きます。

テーマ学習は、理解度に合わせてステップアップしながら学習するコースのためドリルに【学年】【難易度】が表記されません。

▶ 【テーマ学習】の教材タイトル



▶ 【ドリル】の教材タイトル

Scene 6 【教科書ページから探す】

① 検索したい教科書のはじめのページ数を【開始】へ入力し、終わりのページ数を【終了】へ入力して【探す】を選択します。

「テスト対策」は国語、体育、音楽、美術が対象外、「教科書ページから探す」は、体育、音楽、美術が対象外です。

3.3　ライブラリのコンテンツ一覧

「ライブラリ」に収録されている教材を紹介します。
ご契約によって、ご利用いただけるコンテンツは異なります。

収録場所
【児童生徒メニュー】▶【ライブラリ】
【先生メニュー】▶【ライブラリ】

ライブラリの画面を開く

▶ 児童生徒メニュー

① 【ライブラリ】のコンテンツ一覧から、任意のコンテンツを選択すると開きます。

▶ 先生メニュー

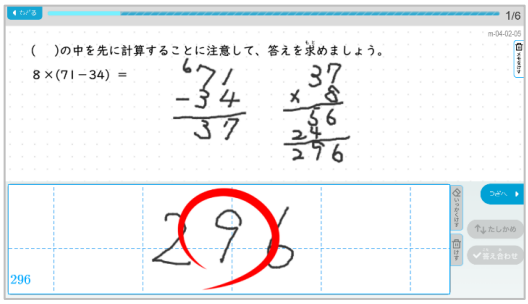
① 【ライブラリ】を選択すると、ライブラリのコンテンツ一覧が表示します。
② 任意のコンテンツを選択すると開きます。

eライブラリ 手書きex ライブラリの基本コンテンツ　ー手書きｅｘー

１年生から２年生は、「漢字学習」「計算問題」で学習できます。３年生以上は、「書き取り問題」が追加されます。
漢字では「とめ」「はね」「はらい」「筆順」が判定されます。

きき手を設定すると、漢字入力欄の配置が左右いれかわります。

【計算問題】

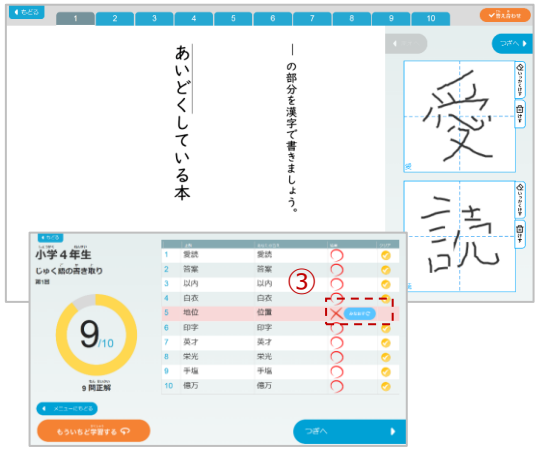


● 解答だけでなく、途中計算も書き込めます。

【漢字学習】…該当学年の単漢字

① 【全ての漢字】は、漢字配当表から単漢字を学習できます。
② 【教科書たん元】は、単元に沿って漢字を学習できます。

【書き取り問題】…該当学年の熟語



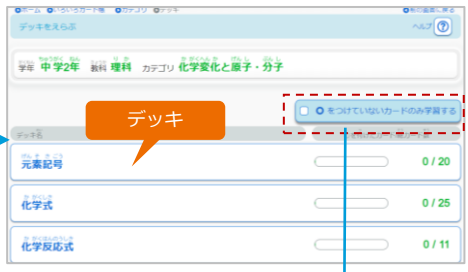
③ 全問判定後、【みなおす】で間違えた漢字だけの確認もできます。

ライブラリの基本コンテンツ　ーいろいろカード帳ー

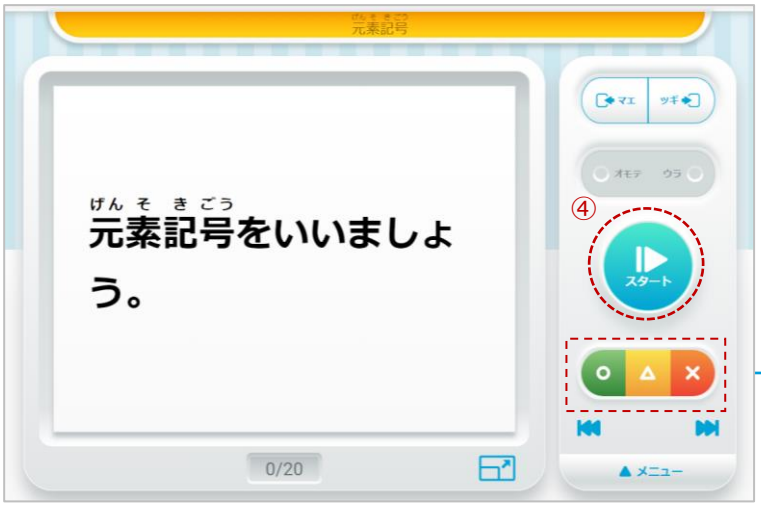
フラッシュカード型の教材です。小・中・教科別に、バラエティ豊かなカード帳を収録しています。

① 【カード帳を見る】を選択します。

② 【学年】【教科】【カテゴリ】を選択します。

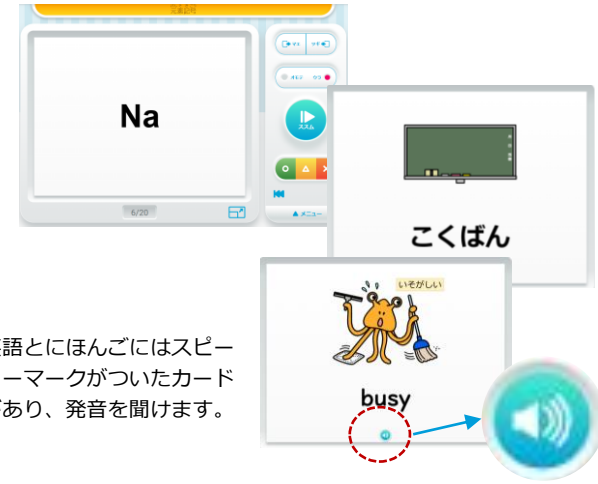


③ 【デッキ】を選択します。



④ カード帳が開きますので、【スタート】を押します。

「○△×」をつけられるので、覚えたカードに○を付けておき、「○を付けていないカードのみ学習する」ことができます。



英語とにほんごにはスピーカーマークがついたカードがあり、発音を聞けます。

先生メニューでは印刷ができる

先生メニュー＞ライブラリ

教科書単元、ページ検索に対応

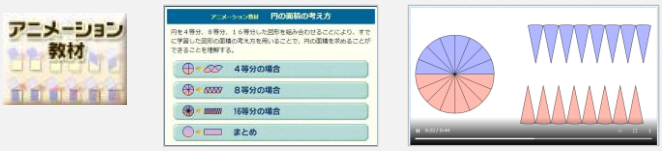
児童生徒メニュー＞自分で選ぶ＞単元学習＞自分で選ぶ
先生メニュー＞教材検索

ライブラリの基本コンテンツ一覧と詳細　ーその他ー

ゴー！ゴー！サンセットタウン

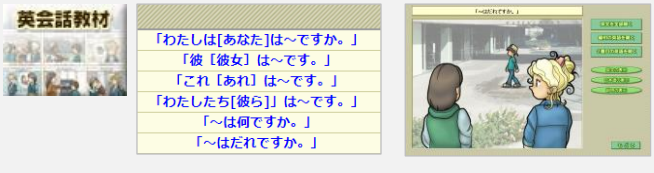
英語の視聴覚教材です。町の住民の話を聞き、新聞記事にまとめます。「類推しながら聞く力」を高め、コミュニケーション能力の素地を養います。

アニメーション教材



「月の動きと満ち欠け」や「円の面積の考え方」などを、アニメーションで確認できる教材です。
※ 家庭版では、利用できません。

英会話教材



基本文法に沿った英会話を、イラストと音声で学べる教材です。

スマホ・ケータイ ファミリーガイド

スマートフォンやＳＮＳに焦点をあてた情報モラル教材です。
インターネットの正しい使い方を学習できます。
※ 家庭版では、利用できません。

3.4　学習したことをふりかえる

児童生徒が学習履歴を確認したり、ふりかえりを入力して先生へ送信する操作手順を紹介します。学習したことをふりかえり、次の学習につなげることができます。

収録場所

【児童生徒メニュー】▶【ふりかえり】

【ふりかえり】を開く

①　【ふりかえり】を選択します。

Scene 1　学習状況を確認する

メダルの種類

月ごとの学習日数・回数・平均点によって、メダルの色が変わります。

① 日々の取り組み

【くわしく見る】を選択すると、月間・年間のカレンダーが開き、日付を選択すると、取り組んだ教材や得点などが表示されます。

② 学習結果

【学習結果へ】を選択すると、教科ごとの取り組み状況や「できている」「できていない」ところの傾向を確認できます。

Scene 2　メッセージを入力する

【今日のふりかえり】【メッセージを書く】を選択し、任意のメッセージを入力して、【先生に送信】を選択します。

⚠ **児童生徒同士のメッセージのやりとりはできません。**

Chapter. 4

学習指示ー授業支援へー

授業内容を理解しているかを確かめる問題を出題し、解答結果から、クラスの理解度を確かめられます。授業の中で刻々と変化する児童生徒の様子を把握しながら授業を進められます。

4.1 授業支援機能

授業内容を理解しているか確かめる問題を出題します。問題数は一問から設定できます。
解答結果はすばやく集計され、クラスの状況把握に役立ちます。

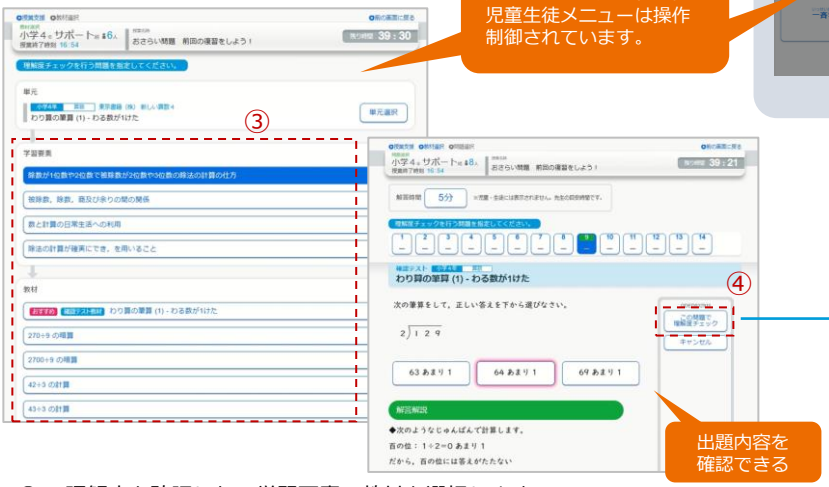
収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示】
【授業支援へ】

「授業支援」を利用する

① 【授業支援へ】を選択すると、授業の設定を行う画面が開きます。
② 【対象】を選択します。
③ 【範囲選択】で【学年】【教科】【単元名】を選択します。

【授業開始】

① 【授業開始】を選択したら、児童生徒へログインを促します。
② 【生徒準備状況】で準備完了になっていることを確かめ、
【理解度チェック実行】を選択します。



③ 理解度を確認したい学習要素、教材を選択します。
④ 【この問題で理解度チェック】を選択します。
⑤ 児童生徒メニューに出題が反映されます。

【理解度チェック】

⑥ 児童生徒の解答は、理解度チェックモニターに反映されていきます。
⑦ 全員の解答が終わったら、【理解度チェックを終了】します。

※理解度チェックは、１０回まで実施できます。

Chapter. 5

学習指示ー学習指示へー

クラス・個人の理解度を確かめる「確認テスト」や理解度に応じた課題を出題することができます。また、出題した課題は、家庭でも取り組むことができるため、家庭学習や週末課題として利用することができます。※ 出題した課題は、削除できません。

5.1 「確認テスト」で理解度を確かめる

児童生徒へ「確認テスト」を出題するときの操作手順を紹介します。
クラス・個人の理解度の確認に役立てることができます。また、確認テストは、授業に加え、家庭でも取り組むことができます。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示】▶【学習指示へ】

「確認テスト」を出題する

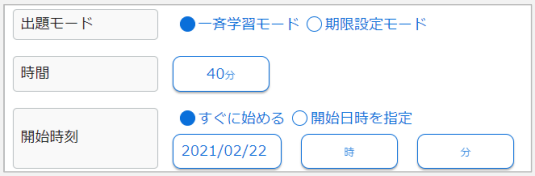
① 【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
② 出題する【学年】【クラス】を選択します。
③ 確認テストを出題する【教科】を選択します。

先生アカウントの【担当学年・クラス】を設定している場合は、②の操作は必要ありません。

④ 確認テストを実施する単元の【テスト指示】を選択します。
⑤ 指示内容を設定します。実施時間などを設定し、【出題する】を選択すると、児童生徒へ出題されます。

※ 出題された確認テストを児童生徒が取り組む手順は、P.４をご覧ください。

テスト時間の設定



【一斉学習モード】を利用する場合、確認テストに取り組む時間と開始時刻を指定することができます。【時間】を選択すると、5～120分を選択でき、5分単位でテスト時間を設定できます。

出題した課題は、削除できませんのでご注意ください。

先生の指示以外の操作を制御する

【一斉学習モード】を利用する場合、確認テスト以外を操作できなくできます。【操作制御】の項目にチェックをつけると、「先生の指示」以外の操作ができなくなります。

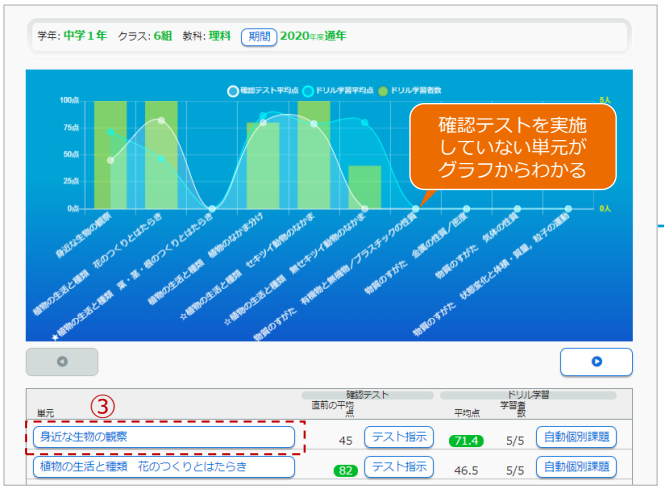
5.2　確認テストから理解状況を確かめる

確認テストの結果からクラスの理解状況を確認できます。「学習指示」「成績管理」どちらからでも見られますが、ここでは、「学習指示」からの操作手順を紹介します。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示】▶【学習指示へ】▶【クラス概況】

単元ごとに理解状況をグラフで確かめる

① 【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
② 成績を確認する【学年】【クラス】【教科】を選択します。

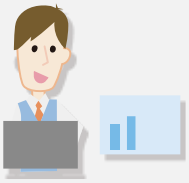


③ 成績を確認する【単元】を選択すると、確認テストとドリルの実施状況が表示されます。
④ 【テスト結果詳細】を選択します。

学習要素ごとの理解度がグラフで表示されます。

学習要素ごとに理解度を絞って確認できる

確かめたい学習要素にチェックをつけることで、学習要素ごとに理解度を絞り込むことができます。



「成績管理」で確認テストの結果を見る

【クラスビュー】または【教科ビュー】を選択し、教科、クラス、単元名を選択すると、【テスト結果グラフ】から、確認テストの理解状況を確認できます。

5.3　児童生徒の理解度に沿った課題を出題する

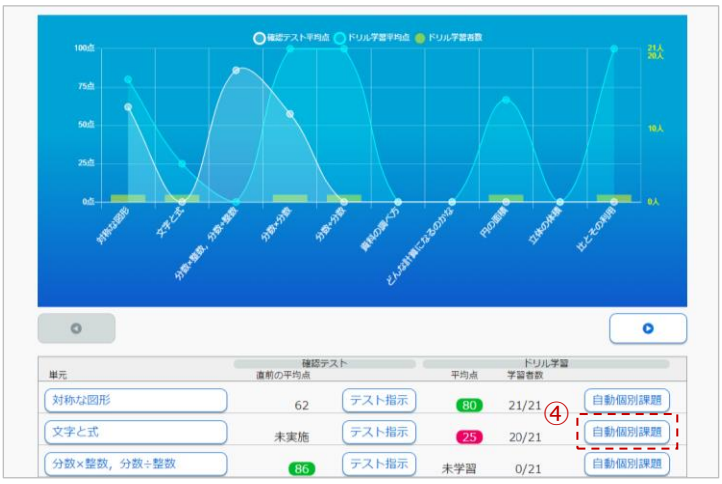
確認テストやドリルの学習結果から、個人の学習履歴に応じて課題を自動構成します。課題タイプは、７つから先生が選べます。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示へ】▶【自動個別課題】

「自動個別課題」を出題する

①　【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
②　出題する【学年】【クラス】を選択します。
③　自動個別課題を出題する【教科】を選択します。

先生アカウントの【担当学年・クラス】を設定している場合は、②の操作は必要ありません。



④　課題を出題する単元の【自動個別課題】を選択します。

⑤　【課題タイプ】を選びます。
⑥　指示内容を設定します。実施時間などを設定し、【出題する】を選択すると、児童生徒へ出題されます。

⚠ **出題した課題は、削除できませんのでご注意ください。**

課題タイプ

- ●調整型自動個別……児童・生徒の理解度を総合的に判断し、各自に適した課題タイプで出題
- ●苦手をなくす……理解度が低い学習小単元の教材を自動構成して出題
- ●弱点を克服……理解度が低い学習小単元の基礎となる教材を自動構成して出題
- ●得意をのばす……理解度が高い学習小単元の発展的教材を自動構成して出題
- ●テスト対策……指定した教科書ページの範囲で教材を自動構成して出題
- ●おさらい……指定した期間・教科内で間違えた問題のみを自動構成して出題
- ●集中講座……指定した学習小単元の教材を自動構成して出題

5.4　教材を指定して課題を出題する

児童生徒へ学年や教科、教材を指定して課題を出題するときの操作手順を紹介します。一斉授業での利用はもちろん、期日を指定して課題を出題することもできるため、家庭学習の課題としても利用できます。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示へ】
【教材指定学習】

課題を出題する画面を開く

①　【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
②　【学習指示を出す（任意設定）】を選択します。

⚠ **出題した課題は、削除できませんのでご注意ください。**

出題する学年・クラスを指定し、出題モードを設定する

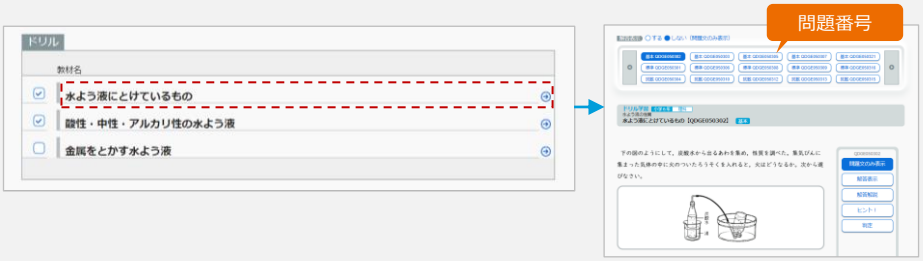
①　【教材指定学習（教科横断可）】を選択し、【学年】【クラス】を選びます。
②　出題モードを設定します。
③　【教材を選ぶ】を選択します。

教材を選び、課題を出題する

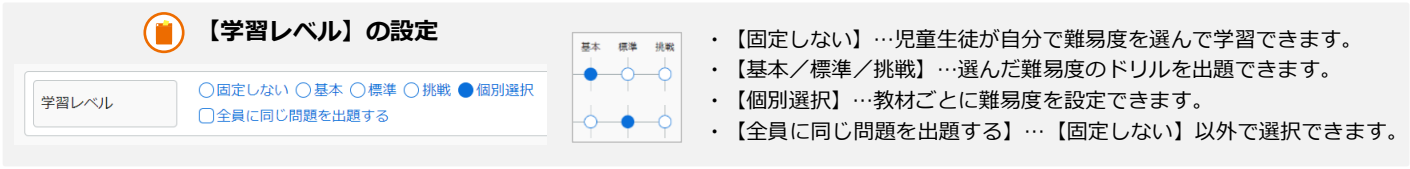
①　【教材を探す】を選択します。
②　出題する【学年】【教科】【単元】を選択します。
③　任意のドリルと解説にチェックをつけ、【追加する】を選択します。

出題前に教材内容を確認する

【ドリル】の教材名を選択すると、教材内容や解答解説などを確認できます。教材番号を選択すると、すべての難易度の問題内容を確認できます。
【解説】の教材名を選択すると、解説教材と確認問題の内容を確認できます。



④　【決定】を選択し、【出題する】を選ぶと児童生徒へ課題が出題されます。



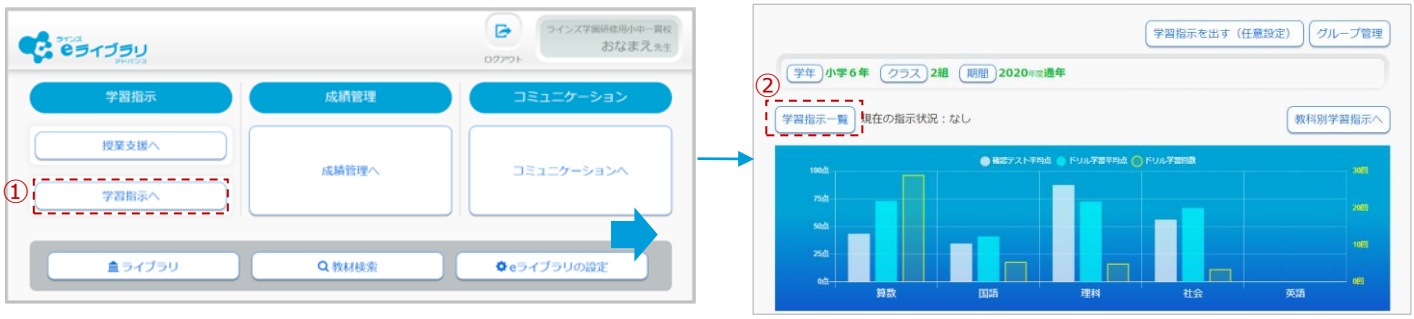
- 【固定しない】…児童生徒が自分で難易度を選んで学習できます。
- 【基本／標準／挑戦】…選んだ難易度のドリルを出題できます。
- 【個別選択】…教材ごとに難易度を設定できます。
- 【全員に同じ問題を出題する】…【固定しない】以外で選択できます。

5.5　出題した課題の取り組み状況を確かめる

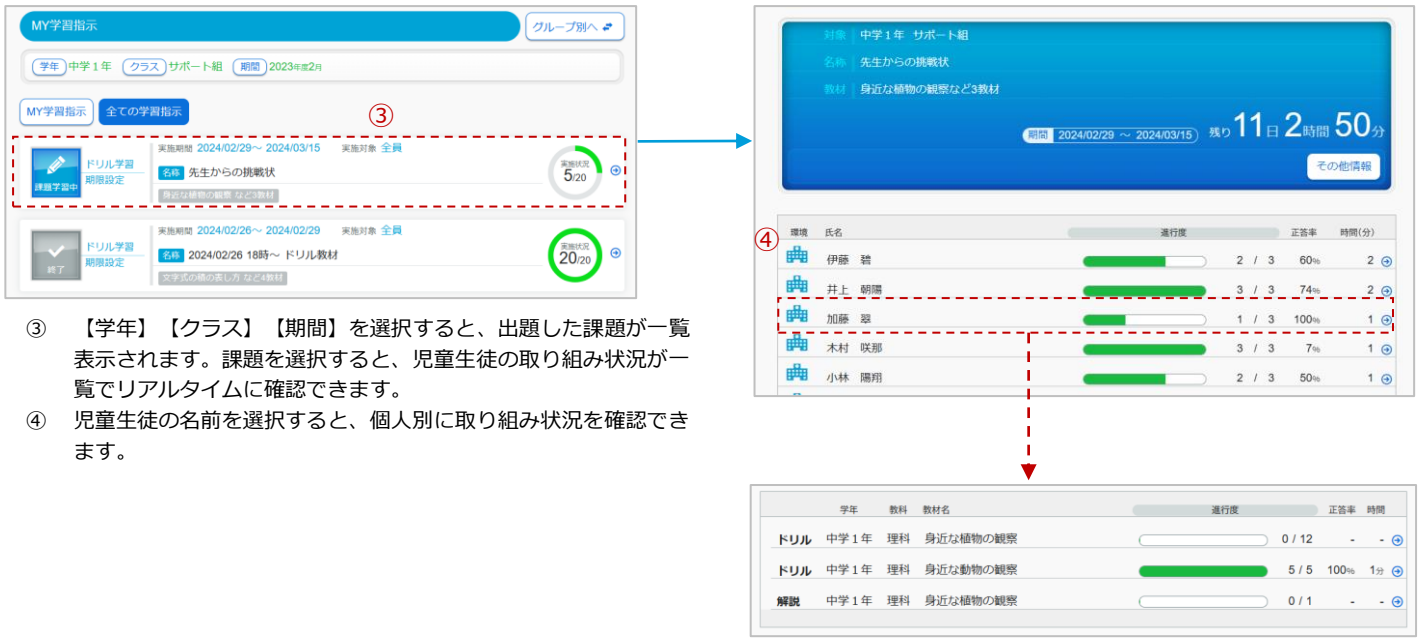
出題した確認テストや課題の取り組み状況（進捗）を確認するときの操作手順を紹介します。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示へ】
【学習指示一覧】

出題した課題の一覧を開く



①　【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
②　【学習指示一覧】を選択します。



③　【学年】【クラス】【期間】を選択すると、出題した課題が一覧表示されます。課題を選択すると、児童生徒の取り組み状況が一覧でリアルタイムに確認できます。
④　児童生徒の名前を選択すると、個人別に取り組み状況を確認できます。

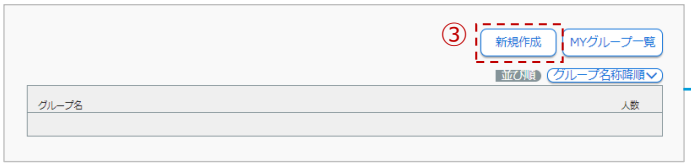
5.6　特定の児童生徒に課題を出題する

特定の児童生徒でグループを作成するときの操作手順を紹介します。特別支援学級や少人数指導で課題を出題するときに利用できます。
※ 課題の出題方法は、P.11～16をご覧ください。

収録場所
【先生メニュー】▶【学習指示へ】▶【グループ管理】

グループを作成する

① 【学習指示へ】を選択すると、クラスの学習状況を確認する画面が開きます。
② 【グループ管理】を選択します。



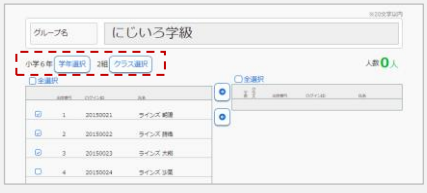
③ 【新規作成】を選択すると、グループ編成画面が開き、左側に児童生徒の名前の一覧が表示されます。

グループ編制をする

① グループ名を入力し、対象の児童生徒が所属する【学年選択】【クラス選択】を選択します。
② 左側の児童生徒一覧の対象の児童生徒にチェックをつけ、【→】を選択すると、右側の児童生徒一覧へ移動します。
③ 【1件登録】を選択すると、グループができあがります。続けてグループを作成する場合は、【連続登録】を選択します。

学年を越えてグループを編制できる

【学年選択】【クラス選択】で学年・クラスを指定すると、学年を越えてグループを編制することができます。



Chapter. 6

児童生徒の成績を確認する

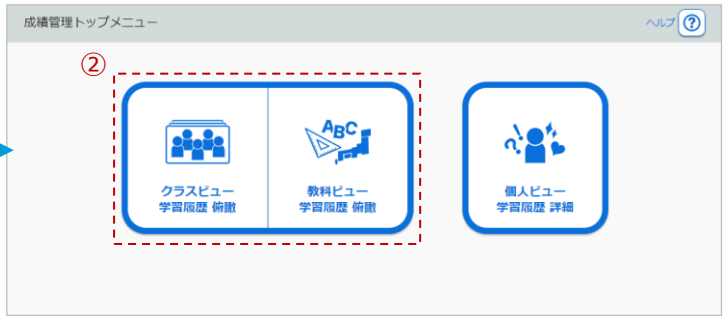
児童生徒のクラス・個人の理解状況や学習状況を詳細に確認することができます。また、学校版、家庭版、ダウンロード学習アプリ版の学習履歴が同期しているため、授業づくりや個別指導に役立てることができます。

6.1 クラス・教科ごとに成績を確かめる

児童生徒の学習履歴を俯瞰で確認できます。クラスごと、または教科ごとに、理解状況を、必要な観点から全体的にすばやく把握でき、授業改善につなぐ情報を引き出せます。

収録場所
【先生メニュー】▶【成績管理へ】
▶【学習履歴　俯瞰】

成績管理の画面を開く



① 【成績管理へ】を選択します。

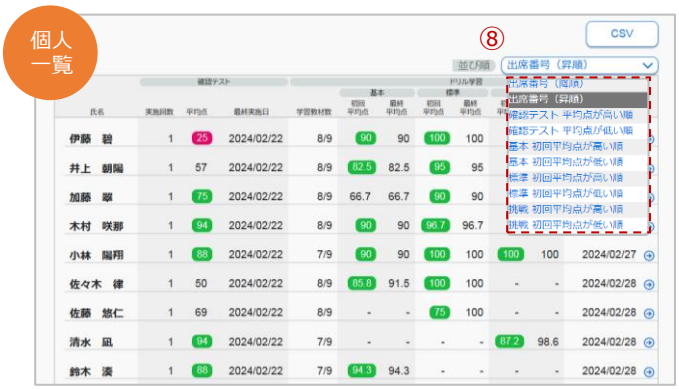
② 【クラスビュー】または【教科ビュー】を選択します。

「学習履歴　俯瞰」で全体の理解状況を把握する

ここでは、「学習履歴　俯瞰」の【教科ビュー】を選択したときの流れを紹介します。

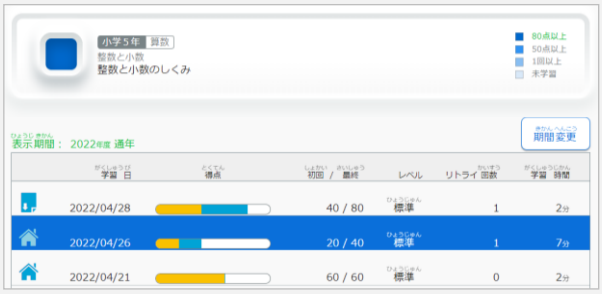
① 【教科ビュー】を選択し、【学年】【学習学年】【期間】を変更します。
② 【教科】を選択します。
③ クラス別概況を表示し、詳細を見たい【クラス】を選択します。
④ 単元別概況を表示し、【単元名】を選択します。

⑤ 「単元　学習結果（クラス全体）」を表示します。
⑥ 【個人一覧】を選択します。



⑦ 確認テストとドリル学習の取り組み詳細が見られます。
⑧ ソート機能で、クラス内で平均点順などに並べ替えができます。

一人ひとりの学習履歴詳細が分かる



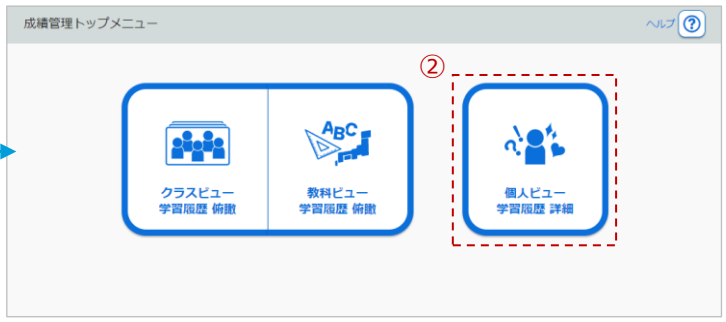
① 左の画面で【氏名】▶【教材名】を選択すると、一人ひとりの「ドリル結果詳細」を見られます。
② ５ページの、児童生徒が自分の学習結果を見るときと同じ内容です。
※成績管理＞個人ビュー　からでも見られます。

6.2　個人ごとに成績を確かめる

児童生徒の学習履歴を個人別に確認することができます。個人の成績や取組姿勢、学習行動を詳細に把握できるため、個別にフォローが必要な児童生徒の指導に役立ちます。

収録場所
【先生メニュー】▶【成績管理へ】
▶【学習履歴　詳細】

成績管理の画面を開く



①　【成績管理へ】を選択します。

②　【個人ビュー】を選択します。

Scene 1　「教科別履歴」を確かめる

①　【学年】【クラス】を選びます。

②　【学習学年】【教科】【期間】の変更、絞り込みができます。

③　【並び順】を変更できます。平均点、学習回数などの観点で並び替え、詳細を見る児童生徒名を選択します。

④　「教科別概況」を開きます。各教科ごとの取組み状況や、学習の傾向が表示されます。

Scene 2　「取組姿勢」を確かめる

児童生徒の学習意欲が読み取れる

- 【取組姿勢】を選択すると、ドリルの実施率やコミュニケーションの回数、ログイン回数など、年度内の取り組み姿勢を確認できます。

Scene 3　「学習行動」を確かめる

家庭での学習時間帯を確認できる

- 【学習行動】を選択すると、学習した時間帯を確認できます。家庭での学習時間帯を把握し、生活面の指導に生かすことができます。

クラス全体の「取組姿勢」「学習行動」の傾向を見る

クラス全員の【取組姿勢】等を一覧で見られる

- 個人名を選択する前の「クラス全体」のままでも【教科別履歴】【取組姿勢】【学習行動】を選び変えられ、クラス全体で見ることもできます。

Chapter. 7

児童生徒のメッセージを送受信する

児童生徒とメッセージのやり取りができるコミュニケーションは、児童生徒の意欲関心や気持ちの把握にご利用いただけます。また、教室から離れた場所にいる児童生徒とのコミュニケーションツールとしても役立ちます。

7.1 今日のふりかえりの返信をする

児童生徒から送信されてきたメッセージの内容確認と返信するときの操作手順を紹介します。児童生徒が興味関心をもったことや、気づいたことなどを把握でき、個別フォローもできます。

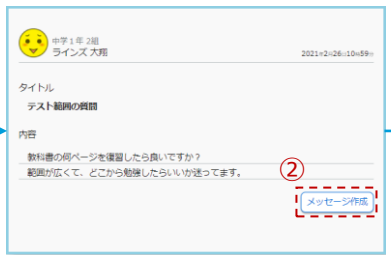
収録場所
【先生メニュー】
▶【コミュニケーションへ】
▶【児童・生徒との連絡】

メッセージの送受信画面を開く

① 【コミュニケーションへ】を選択します。
② 【児童・生徒との連絡】を選びます。

送信したメッセージは削除できませんので、【送信】をするときは、ご注意ください。

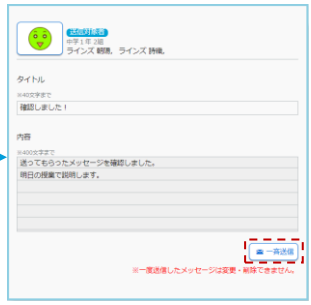
Scene 1 メッセージを個別に返信する



① 対象の児童生徒名を選択し、メッセージを確認します。
② 【メッセージ作成】を選択します。
③ 【スタンプ】【タイトル】【本文】を入力し、【送信】を選択します。

児童生徒への返信内容は、校内の全ての先生から確認できます

Scene 2 未読メッセージを一斉に返信する



① メッセージを返信する児童生徒にチェックをつけて選択します。
② 【一斉送信】を選択すると、メッセージ入力画面が開きます。
③ 【スタンプ】【タイトル】【本文】を入力し、【一斉送信】を選択します。

先生がメッセージを開いたときに、児童生徒の画面に通知が出る

先生が個別にメッセージを開いたり、【一括既読】をしたりすると、児童生徒の画面に【みました！】が表示されます。

7.2　クラス・全児童生徒へメッセージを送信する

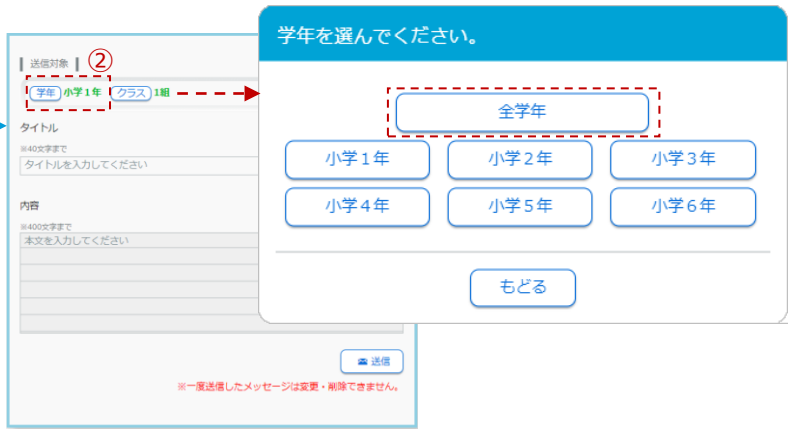
クラス・全児童生徒へメッセージを送信するときの操作手順を紹介します。家庭にいる児童生徒の学習面・生活面のフォローや連絡に役立ちます。

収録場所
【先生メニュー】
▶【コミュニケーションへ】
▶【全体連絡】

メッセージを送信する画面を開く

①　【コミュニケーションへ】を選択します。
②　【全体連絡】を選択します。

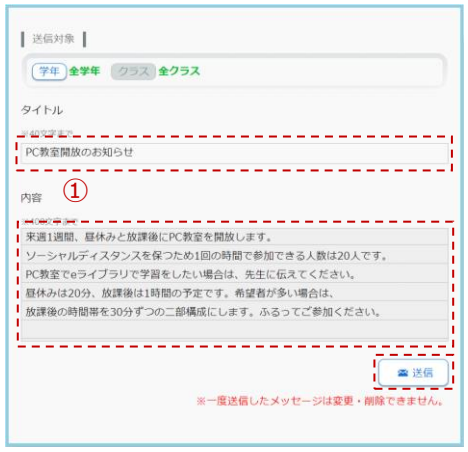
メッセージの送信先を設定する



①　【新規作成】を選択します。
②　【学年】から【全学年】を選択します。

【学年】【クラス】を選択すると、学年・クラス単位に送信することができます。
※ グループには、メッセージを送信できません。

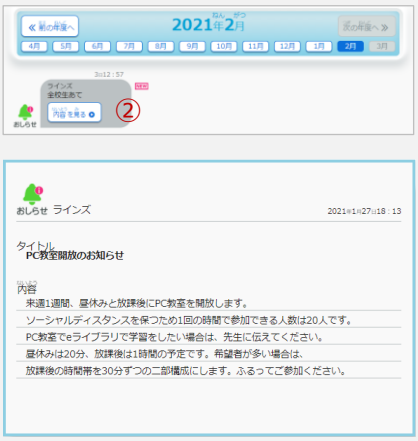
メッセージを作成する



①　【タイトル】【本文】入力します。
②　【送信】を選択すると、全児童生徒へ同じメッセージを送信できます。

送信したメッセージは削除できませんので、【送信】をするときは、ご注意ください。

児童生徒がメッセージを受信したときの表示



①　児童生徒が先生のメッセージを受信すると、【ふりかえり】の下部に【先生からのメッセージあり】と通知されます。
②　【内容を見る】を選択すると、メッセージが開きます。

Chapter. 8

収録教材を活用する

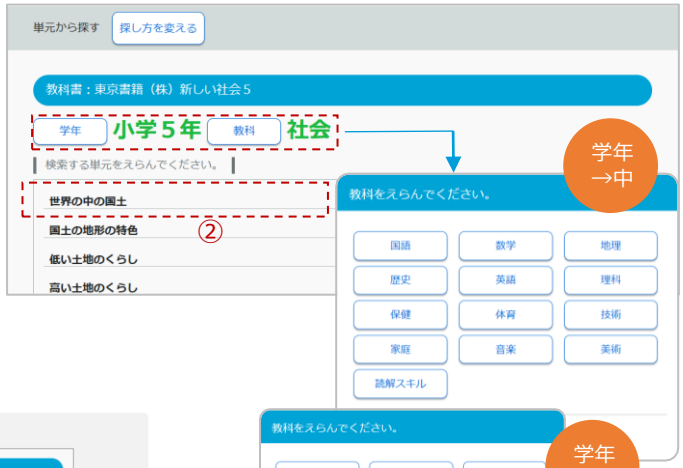
ドリルの他に解説教材や確認問題、図版集などさまざまな教材が収録されています。また大型モニタに提示して利用できる、フラッシュカード型教材やリスニング教材なども収録されており、先生のわかりやすい授業づくりを支援します。

8.1 収録教材を検索して確かめる

収録されている教材を、「教科書ページ」「単元」「ことば」から検索するときの操作手順を紹介します。教材研究や教材作成に役立ちます。

収録場所
【先生メニュー】▶【教材検索】
▶【単元から探す】

教材を検索する画面を開く



① 【教材検索】を選択すると、担当学年の単元一覧の画面が開きます。
② 任意の単元を選択すると、対象単元のコンテンツ一覧が表示します。

他の検索方法

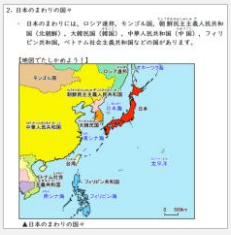
単元から以外に、【教科書ページから探す】【ことばで探す】があります。

▶ 教科書ページから探す

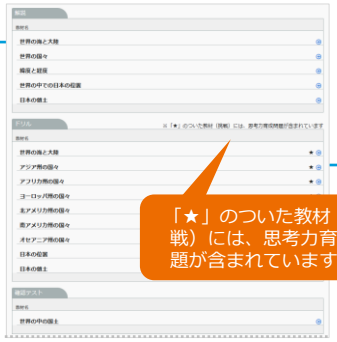
探し方を変える

⚠ 【教科書ページから探す】を利用するには、採択されている教科書の設定（P.2）が必要です。また、体育、音楽、美術、読解スキルは対象外です。

教材を開いて確認する

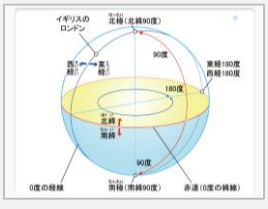


▶ 解説（解説教材／確認問題）
該当単元で学習したことの要点がまとまった解説教材などが開きます。



▶ ドリル・確認テスト
該当単元のドリル・確認テストを、出題前に内容を確認できます。

▶ いろいろカード帳
該当単元のフラッシュ型教材を、提示教材として利用できます。



▶ 図版集
解説教材で利用されている図版を拡大して開くことができます。教材作成などに二次利用できます。

Copyright©Lines Co.,Ltd. All Rights Reserved